

# 令和4年度 第4回男女共同参画審議会 議事録要旨

開催日:令和5年2月4日(土)  
午前 10 時から正午

場所 :さわやかホール4階大会議室

## 出席者

審議会委員 11人(4人欠席)

事務局(地域振興部・協働のまちづくり推進課)4人

午前 10 時開会

## 1 開会

## 2 会長あいさつ

第4回目の審議会となる。これからの社会がどう変わって欲しいかの目標を定めるのがこの審議会の役割。意識調査の自由記述には行政への要望や期待が多く書かれていた。行政をサポートしながら、行政と一緒に考えていくことでよりよい施策につながる。そういったことを議論できたらよいと思っている。今日はよろしく願います。

## 3 パブリックコメント実施結果および広陵町男女共同参画後期行動計画の最終案について

### 事務局説明

- 12月末、計画案の書面確認をいただいた。修正が必要であるという意見がなかったため、令和5年1月6日から1月23日まで、町ホームページやLINE、公共施設の窓口でパブリックコメントとして、計画書に関する意見を募集した。結果として意見の提出はなかった。
- このパブコメ結果報告と最終計画案に関して松岡会長と協議した際、後期5年間の計画とするため、目標値を高め設定するのが良いのでは、と提案をいただいた。
- ご提案いただき、事務局で再考した部分と、誤字脱字、整合性、文章等の校正を行った部分を変更し、一部色を見やすいよう変更させていただき、今回計画の最終案とした。
- 誤字脱字等については、計画の内容に関わらない部分の修正であるため、計画内容に関わる、目標値を上げた部分についてのみ説明する。
- 計画案P43「審議会等の女性登用割合」の後期目標を30%から40%に目標を上げた。本来であれば、男女ともにご意見を反映するためには、男女半々の50%を目指していくべきであり、より高い目標を掲げるのが良いのではないかと提案をいただいたため、審議会の任期が基本的には2年になっている会が多いことから、すべての審議会で、委員の任期が切れる度に女性委員を1人増やした、と仮定したときに、39.9%となるため、その数値である40%にした。
- 計画案P44「社会通念・慣習・しきたりなどの分野が男女平等であると考える人の割合」の後期目標を25%以上から、30%以上に目標を上げた。  
令和4年度の広陵町の実績値は17.6%であり、現状、国の令和元年度の数値である22.

6%よりも5%ほど低いのが、価値観の形成段階にある小中学生への出前講座を実施していくとともに、積極的な情報発信や啓発活動を地道に行い、全国平均より上の目標を目指していきたいと考え数値目標を再考した。

- 「社会全体で男女の地位が平等になっていると思う人の割合」も同様に考え25%以上から、30%以上へ後期目標を上げた。
- 「「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」と考えている人の割合」の後期目標を25%未満から、20%未満へ下げた。

男性も女性も活躍できる社会の実現のためには、本来、性別によって役割を固定する意識の数値はなるべく0に近い方が良い。学校への出前講座、啓発や情報発信、以外にも、女性も男性も働きやすい環境整備や、男女が共同で家事育児ができるよう促進していくことを通して、より性別にとらわれない価値観を育んでいきたいと考え目標数値を再設定した。

- 審議会でご審議いただいた内容を含め、計画案としては、これで決定したいと考える。広陵町での男女共同参画社会実現に向け、この計画にしたがい、取組を進めていきたい。よろしく願います。

#### 男女共同参画への希望、提言、計画の推進に関する事など、計画に込めた想いをひと言ずつお伺いしたい

- (委員)男女共同参画は行政が関わるより、それぞれの家庭や社会の流れのなかで進んで行くのが理想という考えを持っていた。しかし、計画の策定の中で、行政の担当部署がどう進めていくのか、興味を持ちながら行政が男女共同参画に携わる大切さを認識した。男女ともに職場と家庭の折り合いをつけながら、社会に参画できるようになればよい。住民の方にいかに浸透させて行くのが大切である。
- (委員)男女共同参画社会と言われ始めてから年数が経過した。家庭の中で男女ともに参画しないとやっていけない時代になってきた。実現のためには資料に基づいて、住民の皆さまが興味を持ってあちこちで実践していければよい。
- (委員)いろいろな意見を反映して、修正もしていただいた。自分自身、男女共同参画に興味関心を持っていて男女共同参画の推進をしたいと思って参加してきた。家庭と職場の大きな2つの枠組みの中での位置づけ、役割について話がされてきた。緩やかなコミュニティの中で男女共同参画をどう位置づけていくのかというのが生きやすさにつながってくるのではないかと思う。少子高齢化が進んで行く中、第3の緩やかなコミュニティがあれば、今後も問題が起きたときに、みんなで解決していけるのではないか。
- (委員)30年ほど前には、男女共同参画という言葉がなかった。その頃と比較して育児休暇、産前産後休暇も手厚くなったし、よい環境が整ってきた。現状の不満だけでなく、改善をみつめ、感謝することも大切である。計画が、絵に描いた餅にならないよう、町の主導のもと難しい形ではなく、理解しやすい形で町民に広く浸透させていただきたい。男性が家事をしないと、女性は仕事から帰ってからも家事をしなくてはならない。男性の意識改革も必要である。できることから浸透させていくことが5年10年先につながってくる。
- (委員)学校現場においても大きな変化を感じている。30~40年前、女性教員の産休や

育休の際には、代わりの教員を探さなくてはならず、見つからない時の周りのフォローも大変だと見聞きしたことがある。今や数は少ないが、男性教員も育休を取っている。男女の考え方の違いには、家庭教育や家庭環境による影響もあり、年齢によっても違う。田舎の方では、むらの集まりでもほとんどが男性(70~80代)で、時代錯誤の会話もある。そんな中でも、男女共同参画の意識を発信していく一人でありたいと思っている。

- (委員)くじでPTA会長となった。一主婦から会長となり、いろんな会議に参加していかで、いろいろなことを知った。その中で、委員の皆さんも行政もいろいろ考えている方がいることが分かった。審議会の中で素敵な考え方も知れたので、参考にしていきたい。
- (委員)大学でジェンダーについて勉強している。データや数を勉強の中でよく扱う。そんな中、今回の計画策定に当たっても、アンケートや数値による分析の大切さについて実感した。アンケートの自由記述は切実な意見が多く、授業だけでは知れない実際の声を知れた。審議会の中では、役に立つ意見を出す難しさを感じながらも、勉強になったし、参加してよかったと感じる。
- (委員)子育て中で、LGBTの子どもと接したりすることもある。また、授業参観の際に聞いた子どもから家族への感謝の言葉では、母親への感謝が多く、感謝の中身も、料理や洗濯等が多く、家庭で母親の担っている役割が多いと感じた。生活の中でも気づきがあり、勉強になった。
- (委員)やっていただいたことが必ず将来につながる。目標数値も上がってきている。そういう面でも参加して良かったと思っている。一方、マイナスの面を見ると、DVも増えてきている。その背景にはコロナやそれによる外出自粛などがある。今回に限らず、今後も起こりうる事態であるので、このコロナ禍の教訓を将来に活かしていくことが大切。生活の不安の中、人間性に根ざしたことが欠けていたからこそ、こういう問題が起こっているのではないかと思う。そんな中、日頃から文化や芸術等に触れていくことが、(コロナでひきこもりになるなど)将来のリスクに対するアプローチになるのではないか。

家庭に関して言えば、男は子どもが産めない等、男女は性の特性が異なり、分担は悪いことではない。そのときに気持ちよく協力して相手を尊重しながら分担して行くことが大切。そういう意味でも将来に向けて気持ちを高めていきたい。

- (委員)審議会委員の皆さんと、この一年間同士のような心持ちで審議し、つながりがもてた。今後人のつながりがキーワードになると思う。中学校で30年勤めた。生まれ育ちが広陵町であり、広陵町でも長く勤めた。町が大好きである。旧村の密接な人間関係の中、窮屈さを感じることもあるが、フォローをもらえる安心感の中に育った。中学教員の時代、子どもたちのおかれているつらい環境に、無力さを感じたことも多くあった。そんなとき、そういったつらさの入り口のところで、誰かが手を差し伸べられたら変わったかも知れないと思った。

そこで、一念発起して途中退職し、大学院、先進地、広陵町ですと子育てをしてきたお年寄りの人たちの集まり等の場所で勉強し、その中で、女性が昔は嫁ぎ先を選ばなかったり、虐げられたりしていた、広陵町に根付く保守的な固定的役割分担意識がある部分などを知った。

10年前、M字カーブを見て、なぜ広陵町ではこんなに30代~40代の人が働きに外に出

られないのかと思っていた。そこから20年、大きく変わったが、変わらない部分も多くある。

審議会の内容を踏まえて計画が作られていると感じる。中でも、51ページの「今後は、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現により、誰もが充実した人生を送ることができるよう、職場環境の改善、多様な働き方や、両性での家事育児シェアについて広く周知し、啓発を進めなくてはなりません。」と言い切っている部分に覚悟と意気込みを感じた。

家庭、学校、自治会、企業、行政、NPO等いろんなフィールドでできることがあると前回審議会で発言した。今年度、NPOと行政の協働でイベントをした。今までやったことがないため苦労したが、打ち合わせを何回も重ね、入念な準備を行って実施した結果、参加者同士が困りごとや良いアイデアを共有できる良いイベントになった。それぞれの立場でできること、協働でできることを考えていきながら、今後も地域全体で支えるということが続けていきたい。一年、いろんなことを経験し勉強させていただいた。

- (会長)他の委員の話に触発されて話したいことはあるか。
- (委員)計画を読んだ。やるべき事、目標、すべての課題が出ている。5年後の広陵町の男女共同参画をとりまく姿の理想形を描いて表現できたら、と感じた。

LGBTQの方についても、レズビアン・ゲイまでしか知らなかった。これまで知らなかったことを知れて、勉強させていただいた。こういったことを通して考え方や生き方を変えていきたい。

- (会長)目標をつくり、それに向かって社会を変えて行こうという未来志向の計画に変わってきているなど感じる。「緩やかなコミュニティ」という発言があったが、具体的に聞きたい。
- (委員)家庭・職場といった明確な場ではなく、地域のサークルや、NPOなどの明確な立場に縛られない中で少しずつ考え方が変わっていくということが大きい。目に見えない力がそこにはある。そういう場をどうやって私たちがつくっていくのかと考えた時に、少しずつサークルが増えるように働きかけたり、場所を提供してもらえたり、作って良いのだと思える促しがあればよい。奉仕の意識ですることが難しくても、新しい形の互助というか共通でならできる。最終は人と人との関係で円満にやっていけることが多い。お互いに尊重していけることを大切にしていきたい。
- (会長)日常の中にジェンダーに関わることがあり、何かを伝え合ったり、支え会ったり、置かれた立場の中でそれぞれが少しずつやっていく事が大切であると思った。育休の取得の話があったが、自営業の方の育休はないのか。
- (町長)現在は、支援がほとんどないのが実状。議会でも声があがっている。自営業や農業従事者にとって、負担緩和につながるためのサポートの必要性を感じている。提案があればお願いしたい。
- (会長)保育園へ連れて行くだけでも産後すぐではしんどい部分がある。産後がしんどいお母さんが増えている。産後の取組については昔以上に必要になっていると感じている。計画に議会とのつながりも入れて欲しいとも思っていたが、町民の声を届けて実際に議会に取り上げていただくのに、町議員の方の役割は特に男女共同参画においては重要に

なってくるので、傍聴の議員の方にもご意見を聞きたいと思う。

- (傍聴) ずっと審議会の傍聴を続けてきた。コロナ禍の中、取組が進んでいないと追及したこともある。審議会を経て町民の方に働きかけていただいている。そして、計画策定にあたってのアンケートも見せていただいた。旧村に住んでいると男女平等が進んでいないと感じている。

連れ合いの呼称について、主人、うちのひといろいろあるが、何が適切か模索している。仕事と子育ての両立をしてきて、産後の大変さも経験してきた。少しずつ広陵町良くなってきたとは思っている。行政には、もっとこうしたら良いのではないかと、世界の流れなどを踏まえた促しなどを行っているが、良くなってきたと感じている。役場にレインボーラッグを建て、LGBTQの応援を表明してほしいとおもっている。

議員も男女平等やジェンダーについて働きかけていきたい。

3人に1人が性的少数者であるという話もきく。そういう配慮もして欲しいと思っている。

- (傍聴) 会長の求めに応じて議員の役割にしぼって話しをしたい。議員の役割は、町民の意見の代弁者である。直接役場に届けることができない声を届ける事が役割であると考えている。また、議員には横のネットワークがあり、そこで得た先進事例を含めて行政に提案していくことも役割だと考えている。

- (会長) 議員の皆さまにもご協力願いたい。クォーター制についてどう思うか？  
過渡的な形で男女平等に近づけるために有効な制度であるようなので、そういうこともお考えいただきたい。

- (委員) 町民の代表として議会に臨んでいただいている議員の方が、傍聴として来、意見を出していただけてほっとした。議会から行政に追及も大切だが、それだけでなく町民にとって何をすべきか考えていただき、町民と一体になって行政と組んでアタックして町がよくなるようにしていただきたい。

広陵町にも女性議員がいるが、若い方々に議員としても町政にチャレンジして欲しいと思った。

- (委員) 計画の推進の中で連携が大切になってくるが、担当部署が多数書かれた施策があるが、予算についても町民の意見を反映してできるように。困っている方、切実な想いを持っている方、たくさんいる。縦割りではなく、しっかりタッグを組んで、やって行っていたきたい。
- (傍聴) 女性議員については、中々なりたい人がいない、議員になりたいという選択肢がないという人が多い。女性議員を増やす活動をしている人もいる。社会での後押しが必要だと感じる。

#### 4 連絡事項(今後のスケジュール等)

##### 事務局説明

- 多くのご意見に感謝している。行政への期待を感じている。皆さんと共に考え、将来ビジョンを共有できるよう一生懸命取り組んでいきたい。
- つながりやコミュニティについても作りながら、まちづくりにも取り組んでいきたい。

- 皆さまからの期待度の高さに身の引き締まる思いである。
- 計画案については、決定いただき、このあと答申していただく。
- 6月に諮問を受けていただいたことへの答申となる。
- この後計画案を3月定例議会へ上程していく。
- 来年度はこの計画を進めていくための施策を考え実施していく。
- 今後は進捗確認や評価で年1回の審議会実施を考えている。

## 5 閉会

午前 11時30分 閉会

以上